

松岳智榮禪尼 安永四年乙未九月於森井本家死 松本元祐居士妻

心廣元胖居士 天明元年辛丑九月二日 俗名大愼一代和尚肉兄

過去帳ニ據ルト駝堂翁ハ寶曆元年辛未正月十五日ヲ以テ歿シテキル、大潮和尚ノ人參頌ニ見エル享保五年四十
八歳、往來手形ノ享保十二年五十五歳カラ推スト翁ノ享年ハ即チ七十九歳デアル而シテ櫻井君所藏駝堂翁辭世
ノ和歌ハ

阿里かたくなう登幾こと越今楚志る阿きや阿字也登いふ盤不可思議

正月十四日 一蘭舍駝堂居士末後詠

トアルハ正ニ其ノ永眠前一日ノモノニカ、ル、翁ノ先妻ハ翁ニ先ツコト廿九年ノ昔ニ歿シタコトガ亦過去帳ニ
ヨツテワカル

故松本秀業翁ハ我輩モ懇意ニシテキタガ松坂ノ活歴史トモ云フベキ人デアッタ、翁ノ話ニ駝堂翁ノ家ハ舊ト松
坂西町ニ在リ秀業翁ノ家カラ一軒措イテ大橋寄リデアッタ觀音小路ヘハ後ニ移ッタモノダサウダ管テ湊町ナル
長井家ノ老母ノ病ヲ治シ處方ヲ授ケタリシタ事モアッタト云フ、駝堂翁ノ子孫ハ山村氏ヲ稱シタガ今ハ津市ニ
移住シテ居ルト聞ク (大正十三年五月 二日稿)

○斷枝片葉 (其四十七)

牧野富太郎

●梅方茶トナル

大正十五年十月發行ノ醫學博士吳秀三先生ノ著『シーボルト先生』ト顔セル大著中、其第
六二八頁ニシーボルト著『日本植物志』(Flora Japonica)カラ轉寫セラレタ梅 (Prunus Mume Sieb. et Zucc.)
ノ圖ガ載ツテ居ルガ其レガドウシタ拍子カ「日本植物志」ノ茶樹ノ圖トナツテ居ツテ別ニ正誤モナイ、又挿圖

ノ目錄ノ處モ同様ニ日本植物志茶樹ノ圖トナツテ居ル、ソコデ始メテ此書ヲ繙ク人ハさて、シーボルトト云フ人ハ預メテ偉イダト聞テ居タガ梅ヲ茶ト間違ヘル様デハとてもお話しニナランデヤナイカトいぶかる人モ無イデモナカラウ、こんな大著ニこんな事ガアルトハ意外、早く正誤シテ置キタイモンデアル

●めいげ

つさう

飯沼慾齋著『草木圖説』卷ノ七ニめいげつさうト云フ者ガ圖説シテアル、此レハ元來タゞいたどり

ノ一異品ニ過ギナイノデ私ハ先キニ此學名ヲ Polygonum Reynoutia Makino forma colorans Makino. ト極メテ置イタ、ソシテ明治四十三年ニ『草木圖説』ヲ増訂スル時著者ノ原文ノ次へ「前條イタドリノ下ニ於テ述ベシ如ク本品ハ其花色ノ深キ極端者ニシテ特立セル一種ニアラズ、白花ヲ開ク普通品ヨリシテ、紅色深キ本品ニ至ルマデノ種々ノ品類ヲ親睹セント欲セバ、宜シク駿州富士山ニ入り其實景ニ接シ其各品ニ逢着シテ大ニ悟入スベキナリ」ト述ベテ置イタ如ク花後果實ヲ圍ンデ宿存萼ガ増大セシ時普通ハ其レガ白色デアルガ其極端品ハ紅色ヲ呈シ又其紅白ノ間ニハ株ニヨリ濃淡アル淡紅色ノ中間諸品ヲ連ネテ居ルノヲ見ル、ソシテ其間ニ截然タル區界ハナイ、又葉形モ種々デ其肥地ノ者ト石礫ノ間ニ生ズル者トハ大小形狀硬軟等種々ニ相違シ且其莖ノ高サモ一定シテ居ラヌ、甚ダシキハ石罅ニ生ゼシモノハ特ニ葉ガ硬ク莖ガ極メテ低クタゞ數寸ニ過ギヌモノガアル、此ノ如ク自然ノ狀態ヲ靜觀スル人ハいたどりニ異品コソアレ別ニ變種ナドノ無イ事ガ合點セラル、又花穂モ其粗密一定セズ里ニ在ル者ハ莖モ伸ビテ花モ寛ヤカナレドモ高キ山ニ在ル者ハ莖低ク花穂モ稠密デ稍矮生のト成ツテ居ルガ然シ此ノ如キ品モ別ニ變種トスベキ性質ノ者デハナイ

●ばばなかせ

本誌第五卷

第五號「斷枝片葉」中ニ此名ヲ舉ゲシ (306 頁、第四行) ガ料ラズモ其何ノ植物タルヲ書キ落シタ、即チ是レハ但馬豊岡ノ方言デまんなく (Hamamelis japonica Sieb. et Zucc.) ヲ指シタモノデアル

●海帶

支那デ海帶ト云フノハ吾人ノ稱スルこんぶデ始メ Laminaria 屬ノ何レカノ種ヲ昔ノ支那人ガ海帶ト名ケタモノデアルガ今果シテ其何ノ種ヲ指シタモノカハ固ヨリ明メ難イ、支那ノ『本草綱目』ト云フ書物ニハ『嘉祐

本草』ヲ引テ「海帶ハ東海ノ水中石上ニ出ヅ」トアル、即チ此品ガ支那ノ東方ニ當ル海カラノモノデ其レガ當時支那へ輸入セラレタ事ガ明ニ想像セラル、『本草綱目啓蒙』デハ之レヲ *Laminaria* 屬ノほそめ 南部 一名みづめ 仙臺 一名みづわかめ 同上、生ノモノ 一名ぼんめ 同上、乾物 ニ充テ、居ルガ是レハ中ラズト雖モ遠カラヌ說デアル、『植物名實圖考』ノ圖ヲ觀テモ其レガこんぶ屬ノ者デアル事ガ首肯セラル、支那デハ日本ヨリ同國ニ輸入スルこんぶヲ東洋海帶ト稱スルト『支那貿易物產字典』ニ出テ居リ又『日清物產略誌』ニハこんぶヲ支那名海帶ト出テ居リ、又『清國水產辨解』ニモ海帶ヲこぶトシテ居ル、先ヅ此シナ譯ユエ私ハ海帶ヲこんぶトスル、ソシテ其種ハ必ズシモ一種ニ限ラレタ者デナイト定メ置クノガ實際ノ運用デアラウト思フ、往時海帶ヲあらめトシタノハ固ヨリ誤デアッタ

●昆布

此昆布ハ今日吾人ノ稱スルこんぶノ字源デアルトハ言

ヘ昆布其者ハ固ヨリ其こんぶデハナイ然レバ此レハ何デアアル乎私ハ之レヲわかめ (*Undaria pinnatifida* SURING.) ト定メタイ、『本草綱目』ニ據レバ此レモ前者ノ海帶ト同ジク東海ニ出ルモノデ高麗カラモ出ルトアル(尙他處カラモ出ルトモ書テアル)、『本草綱目啓蒙』ニハ朝鮮人ハわかめノ事ヲ昆布ト書クト記シテ居リ、『植物名實圖考』ヲ見テモ羽狀裂ノ大形ナ海藻ガ描イテアツテ敢テ少シモ謂ユルこんぶ (*Laminaria* spp.) ノ影跡ハナイ

●海蘊

小野蘭山ハ古人ノ說ヲ守ツテ之レヲもづく (*Cladophora decipiens* OKAM.) ニ充テ居ルコ

ト其著『本草綱目啓蒙』ニ見エ其後ノ學者ハ皆之レニ雷同シテ居ル、然シ是レハ眞ニヨイ加減ナ想像ノ充テ方デ少シモ信ヲ措クニ足ラヌモノデアアル、ツマル所海蘊ハ海藻ノ一種ニハ相違ナイガ其レガ何ンノ種ニ當ル者ダカさつぱり判ラヌノデアアル、『本草拾遺』ニ在ル海蘊ノ記文ハ「大海ノ中ニ生ズ細葉馬尾ノ如ク海藻ニ似テ短シ」デアツテ李時珍ガ述ベタ『本草綱目』ノ海蘊ノ記文ハ「蘊ハ亂絲ナリ其葉之レニ似タリ故ニ名ク」デアアル、亂絲狀ノ海藻ナラ何ンデモ之レニ當ル、其レヲ特ニもづくダ何ンテ、誠ニノンキナモノデハアル、從來我邦ノ草木ニ充テタ漢名ニハ信ジ難イモノガ頗ル多イ事ヲ今日世人ハ能ク知ツテ置カネバナラヌ